

## 〈解答〉

- ① 1 (1) 冬の雲間から洩れる一筋の光  
      (2) ア  
      2 イ  
      3 ウ

配点 ① 1(1)、3は各3点、他は各2点 10点満点

## 〈解説〉

- ①  
1 (1) あかりの目に宿る「光」を、比喩を使って表現している部分として、「とうさんの内心まで見通すようなつよい光」(傍線部①の六～七行前)と、「ちょうど冬の雲間から洩れる一筋の光に似ていた」(傍線部①の直前の文)という二箇所が挙げられるが、その「光」の明るさや暖かさを表現しているのは、後者である。

(2) 「あたりが暗い」「あたりが寒い」というのは、「とうさん」から見た時に、あかりの周囲がそのように見えたり感じられたりするという意味である。では、「とうさん」から見て、あかりの周囲が暗く、寒いように感じられたのはなぜか。それは、一人っ子で、母親がおらず、子どもらしい生き方をしていないというあかりの生活環境から、「とうさん」が想像したのだと考えられる。よって、「幸福とはいえない状況」とある、アが正解となる。

- 2 ② の直前に、「新入生の群れが、えさに集まる鯉になって」とあるので、「多くの人や動物が群れ集ったり、群れがばらばらと散っていたりするさま」を表す「わらわら」があてはまるとわかる。
- 3 本文に、あかりが中学生になるまでのことを、「とうさん」が回想している場面があり、これが、ウ「娘の成長過程を振り返る」という部分と一致する。また、ア「(父親と娘が)第三者の視点で比較するように描かれている」、イ「春らしい季節の様子を、色鮮やかに描き出す」、エ「自分の中学生時代を思い出し」の部分、それぞれ誤り。